

# 平成22年度事業報告

[平成22年4月1日～平成23年3月31日]

平成22年度の事業は、昨年に引き続き財団の目的を達成するため、寄附行為第4条に定める事業を以下のとおり実施した。

## [I] 事業関係

### 1. 本部事業

#### 1-1. 運営委員会の運営

YAC本部長のもと、活動・運営方針の検討を行う全体委員会のほか、共通プログラム、団員に係る調整を検討する「子ども部会」、リーダーの育成を検討する「指導者育成部会」、教材開発を検討する「教材開発部会」、活動に係る財政支援、アウトリーチ策を検討する「おとな部会」からなる「YAC運営委員会」を運営した。

#### 1-2. 分団活動の拡充

分団等の活動をより一層効果的に支援するために以下の事業を実施した。

##### (1) 分団の運営支援

分団の活動状況及び人材(団員・指導員)に関する情報、データの収集・管理を行うとともに、分団運営に有効な情報、資料等の提供を行なった。

##### (2) 地区連絡協議会の活動推進

分団相互の情報交換や研修を行うことを目的に、全国9地区(北海道・東北・関東・北陸信越・東海・近畿・中国・四国・九州)の地区連絡協議会の活動を推進した。

##### (3) 分団長会議

地方本部長、支部長及び分団長の参加による「全国分団長会議」を開催し、YAC活動の方策及び問題点の協議、情報交換等を行い、分団活動の活性化を図った。

##### (4) 教材についての情報提供

各種教材の指導方法及び入手方法について、ホームページ等を通して情報の提供を行なった。

### 1-3. 分団結成及び団員拡大

JAXAの宇宙教育の拠点化による全国展開施策と連携し、分団結成および団員拡大を図るとともに関係機関への協力要請を行なった。

#### (1) 分団結成状況

平成22年度には次の5分団が新たに結成された。

- ① みさわ分団（青森県） 平成22年 6月13日
- ② 高知分団（高知県） 平成22年 7月18日
- ③ 玄海っ子分団（佐賀県） 平成22年11月 6日
- ④ 薮波分団（富山県） 平成23年 2月 5日
- ⑤ 那覇分団（沖縄県） 平成23年 3月21日

これにより、平成23年3月末現在の地方組織の状況は、1地方本部、8支部、135分団となった。

### 1-4. JAXA及び科学館等との連携

宇宙教育活動の推進のため、JAXA及び科学館等との連携を図り、宇宙教育活動の裾野の拡大を図った。

### 1-5. 情報の提供及び広報活動

団員等へ情報の提供を行うとともに、広く一般へ情報提供することにより分団活動への理解を得るための活動を行なった。

#### (1) 青少年に対する情報誌の発行等

- ① JAXA/YAC/「子供の科学」共同編集による「宇宙（そら）のとりら」の編集、配布（発行元：JAXA）
- ② 「スペースガイド 宇宙年鑑2011」の編集協力

#### (2) ホームページ等による情報の提供

本部・分団の情報を迅速に分団・団員及び一般の利用者に公開するとともに、本部と分団のホームページをリンクし、分団の情報及び本部イベントの情報、分団活動に役立つ教材情報などを提供した。また、宇宙・科学に関する情報を、各分団員及び指導員へ電子メールで提供した。

#### (3) マスメディアによる広報活動

事業の周知を幅広く行うため、メディア等に対して積極的に情報を提供した。

#### (4) グッズの製作及び販売

YAC独自のグッズを製作し、各種イベントの開催時等に販売し、YACの存在をアピールした。

## 1-6. 普及啓発事業

団員及び一般に対し、宇宙・科学に関する知識の普及啓発を目的に以下の事業を行なった。

### (1) 種子島スペースキャンプ2010

種子島宇宙センターの見学、自然環境学習、キャンプ実習等をカリキュラムとした体験形式の「種子島スペースキャンプ」を開催し、青少年の宇宙及び地球環境への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。

### (2) つくばスペースキャンプ2010

筑波宇宙センター内において、特別見学、宇宙飛行士模擬訓練、GPS宝探し、専門家との交流など体験形式の「つくばスペースキャンプ」を開催し、青少年の宇宙及び地球環境への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。

### (3) 日本水ロケットコンテスト2010

宇宙教育活動の素材として格好である水ロケットの飛距離及びあらかじめ決められた定点へのアプローチ度、アイデアやデザインなどを競い合う全国大会に、全国各地で開催された予選地区大会の代表が集い、参加者による技術交流を行うとともに、水ロケットの競技を行なった。また、一般も参加できる専門家による講演会や体験参加型のワークショップ等を同時に開催した。

### (4) ハローヒューストン

テレビ会議システムを活用し、米国・ヒューストンで訓練中の日本人宇宙飛行士との交流機会を設け、団員と宇宙飛行士の直接対話・質問により、有人宇宙活動への理解を増進し、団員の宇宙への夢やあこがれを醸成させることを目的に行なった。

### (5) 子ども衛星アイデアコンテスト

全国の小中学生を対象に、「人工衛星のアイデアを提案する」という課題に取り組むことを通して、宇宙を身近に感じるとともに地球・生命の大切さや宇宙開発の意義などを学んでもらう、子ども衛星アイデアコンテストを実施した。

### (6) JAXA施設公開での出展

JAXAの施設公開にあわせて、科学実験や科学工作の紹介を行なった。

### (7) 講演・執筆等

下記イベント等に講師等を派遣した。

- ① 航空宇宙シンポジウム2010
- ② 松本零士氏特別講演会
- ③ 八戸市児童科学館講演会
- ④ 「銀河鉄道999～時空を超えたエネルギーの旅～」制作協力

### (8) 教材の配布

JAXA宇宙教育センターで製作した教材を分団・団員へ配布した。

### (9) 催事活動（後援等）

- ① (財)つくば科学万博記念財団主催の「第12回ジュニア発明展」協力
- ② 「文化人・芸能人の多彩な美術展」実行委員会主催の平成22年度「文化人・芸能人の多彩な美術展」後援
- ③ 金沢市教育委員会主催の「平成22年度キゴ山宇宙塾」後援
- ④ 呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）主催の第15回企画展「国際宇宙ステーション完成～日本実験棟『きぼう』の活動」後援
- ⑤ 学校法人電子開発学園九州主催の「宇宙展」後援
- ⑥ 名古屋市科学館及び名古屋大学社会貢献人材育成本部主催の「ロケット工作教室」後援
- ⑦ NPO法人日本モデルロケット協会主催の「第20回モデルロケット全国大会」後援
- ⑧ 宙博2010実行委員会主催の「宙博（そらはく）2010」後援
- ⑨ 財団法人発明協会青森県支部主催の「第52回青森県発明くふう展」並びに同時開催の「2010子どもの『科学の夢』展」後援
- ⑩ 日本宇宙少年団広島分団主催の「水の惑星 地球を知ろう 8」後援
- ⑪ 長野県佐久広域連合主催の「佐久広域連合発足10周年記念事業 宇宙飛行士候補 油井亀美也さんと夢を語ろう！」後援
- ⑫ 種子島観光協会主催の「種子島宇宙検定」後援
- ⑬ 缶サット甲子園2010 共催

### (10) パネル等の貸出

宇宙関連イベントや分団が関わる催事に対して、YAC紹介パネルやユニフォームの貸出を行う等、PRを実施した。

## 2. その他事業

### 2-1. 受託事業

文部科学省からの委託により以下の事業を行った。

#### (1) 衛星データを利用した人材育成プログラム

文部科学省から、平成22年度地球観測技術等調査研究委託事業として、「将来の幅広い分野での衛星データ利用を目的とした子ども向け人材育成プログラムの開発及び全国での実証」を受託し、3年計画の2年目の調査研究等を実施した。

## [II] 管理関係

### 1. 役員会

平成22年度は、役員会を以下のとおり開催した。

#### (1) 理事会

- 平成22年 4月26日 (月) 第56回理事会書面表決決議  
(理事長及び専務理事の選任)
- 平成22年 6月27日 (日) 第57回理事会 (21年度決算)
- 平成23年 3月31日 (木) 第58回理事会書面表決決議  
(23年度予算)

#### (2) 評議員会

- 平成22年 6月21日 (月) 平成22年度第1回評議員会 (21年度決算)
- 平成23年 3月31日 (木) 平成22年度第2回評議員会書面表決決議  
(23年度予算)

## 2. 経理概況

平成22年度の主な収入としては、会費収入として約13百万円（団員会費収入約7百万円、賛助会費収入約6百万円）、事業収入約61百万円等、合計約75百万円の収入が得られた。支出としては、事業費約74百万円、管理費等約18百万円の支出があり、差引約17百万円の赤字であった。これは今年度に事務所を移転した際の旧事務所の原状回復工事費やリース契約の解除のための経費など一時的に要した経費17百万円の支出があったものである。なお、事務所の保証金が約1百万円返戻され、差引約16百万円の赤字となった。

### 3. 人員

平成23年3月31日現在の人員状況は次のとおりである。  
理事18名(非常勤)、監事2名(非常勤)、評議員22名(非常勤)、  
事務局員(非常勤4名)

### 4. その他

公益財団法人への移行に向けて検討を開始した。